

健康的な天然木材の床

フローリング・ニュース

発行所：日本フローリング工業会
編集責任者：広報法務委員長 石本 勝範

〒135-0033 東京都江東区深川12-5-11 木村会館507号
TEL03-3643-2948 FAX03-3643-2990 <http://www.j-flooring.jp>

6月4日施行「長期優良住宅促進に関する法律」で変わる日本の住宅

「長期優良住宅促進に関する法律」いわゆる長期優良住宅促進法がいよいよ6月4日施行となる。福田康夫前首相の肝煎りだった200年住宅構想から始まった政策で、日本の住宅の根本的な底上げを目的とする。具体的には欧米並みに長寿命化することで、構造躯体の耐久性や耐震性を高めることから木材業界にとっても歓迎すべき政策となりそうだ。

そこで、改めてポイントを整理してみる。まずは認定基準だが、ハードルはそう高くは設定されていない。基準となる品確法の住宅性能表示制度と同水準が求められるのは、「構造躯体等の劣化対策」「耐震性」「維持管理・更新の容易性」「省エネルギー対策」の4つ。劣化対策では等級3、耐震性は等級2以上、維持管理・更新の容易性は等級3、省エネは等級4のハードルが設定されている。

さらに一般住宅との大きな違いは、30年以上の維持保全計画を提出することが挙げられる。施工業者は着工前に「長期優良住宅建築計画」を申請することになっており、それに基づく維持保全計画を30年以上という長期計画として提出する必要がある。

このポイントを踏まえたくうえで、顧客は税制優遇が受けられることになる。主な税制優遇は①住宅ローン減税の最大控除額を600万円に拡充（一般住宅は500万円）②性能強化費用の10%相当額最大 100万円を所得税から控除③床面積120平方 までの固定資産税を5年間2分の1に軽減（同3年間2分の1）④不動産取得税で課税標準からの控除額を1300万円に拡充（同1200万円）⑤登録免許税の税率を一般住宅特例より引き下げなど。

また、予定だが宅金融支援機構の50年住宅ローン「フラット50（仮称）」への対応が可能となるという。

～工業会が記者発表～

公共建築の針葉樹単層「下地施工あれば節数関係なし」

JAS規格で2^節以内に6個など節数の条件がついていた根太張り用フローリングが、直張り用と同様に節有りでも公共建築で使用できることがこのほど、工業会の調べでわかった。年度内をめぐりに「フローリング張り標準仕様書」を改訂し、内外への周知を図る。役物以外でもJAS規格として使えることから、針葉樹単層フローリングの課題だったコスト面をクリア、公共建築における国産フローリング市場が一気に加速しそうだ。

釘打ち施工でも下地あれば直張り分類、埋木補修も緩和

今回確認されたことは、「強度が担保される下地材」を使用していれば「直張り用」とし、節数条件が関係なくなるというもの（日本合板検査会確認済）。「フローリングボードJAS」（平成20年6月版）のなか、根太張りは「フローリングを根太の上に単独で張り込むこと」とするのに対し、直張りは「フローリングを素地床（コンクリート床スラブもしくはその上に下張り床材を施工した床）の上に張り込むこと」と定義されている。つまり、「根太等の上に単独で床面の強度を担保する下張り床材を施工した床」は直張りとなる、ということ。

現在、「根太張りのほとんどが捨て張り（下地に構造用合板など強度を担保する面材を施工すること）で施工される」ということもあり、釘打ち施工であっても下地有りなら直張りに分類され、6個以内という節数の条件はなくなる。また、埋木補修などは節直径25^{mm}以下から30^{mm}以下へ緩和される。これによって、これまで小節以上の等級を要求されていた針葉樹単層フローリングに、一等材料などの使用が認められる。

針葉樹分科会発足させ、普及を図る

工業会生産部会の久津輪光一氏（九州支部長＝池見林産工業）は「国産針葉樹の単層フローリングの直張り用がここ数年で普及したことに加え、下地施工の有無を確認できないメーカーが釘打ち用の材料として根太張り用を出荷していた現実があった」と説明した。

これまで節数の問題からコスト競争力で劣っていた国産針葉樹品だが、節数の少ない高級品以外でも公共建築に使用できることから飛躍的な需要増が期待される。工業会では、21年度内にも生産部会の中に針葉樹分科会を発足させ、国産針葉樹フローリングの普及を図っていく考えを示した。

平成21年度通常総会を開催

積極的にフローリング利用を推進

日本フローリング工業会（田伏恬弘会長）は3月4日、静岡県熱海市のロイヤルウイングで平成21年度通常総会を開催し、事業報告及び事業計画、予算すべての議事が原案通り承認された。

田伏会長は世界的な不況にふれたうえ「厳しいなかで明るいニュースも聞かれる。6月4日施行の長期優良促進法では国産材利用の文言が盛り込まれている。内装面での国産材利用に積極的な取り組みをしていきたい」と話した。また工業会としての対応については「追加経済対策のなか、補正予算案のなかで耐震工事を単年度で集中させることや中学校武道場整備におけるフローリング活用など、工業会会員にとっても朗報とも言える政策だ」と話した。

◇20年度事業報告

通常総会（3月）、生産部会定例会議（4月、6月、9月11月）、施工流通部会（10月）、広報法務委員会（7月、12月）、技術委員会（12月）、理事会（3月、7月、12月）、監事会（2月）正副会長会議（3月）。

フローリングの利用推進活動については、木質フローリングを含む木材需要の拡大に努めることから、木材利用推進全国会議（7月）、関係中央省庁への要請活動（7月）、林野庁へ東京フローリング問屋協会と合同PR活動（6月）を行ったほか、各地区でのPRとして中部地区（5月、6月）、関東地区（6月）、関西地区（11月）が地方自治体や設計事務所などへフローリングの利用推進を働きかけた。

また、4VOC自主規制については、12月にフローリング製品への「4VOC基準適合」マーク自主管理に関する運用規程を工業会としてまとめ、工業会の対応方針を決定した。

本フローリング工業会平成21年度



経済不況のなか「業界にとっては明るいニュースばかり」とあいさつする工業会・田伏恬弘会長

◇21年度主な事業計画

【生産部会】JAS制度に対応した生産製造工程・検査等の品質管理体制を確立し、JASの格付けや出荷管理を的確かつ適正に行う。4VOC自主規制は関係団体と連携し基準をクリアした製品の供給を推進する。性能付加製品や国産針葉樹利用のフローリング製品の開発など。

【施工流通部会】東京フローリング問屋協会、関西フローリング協会などと連携して、都道府県・市町村、設計事務所などへ木質フローリング利用を要請する。

【技術委員会】フローリング張り標準仕様書の改訂作業を進める。

【広報法務委員会】広報誌やパンフレットによる会員内外へのPRに努める。

【組織強化】針葉樹フローリングのメーカーなど会員増強を図るほか、針葉樹分科会の発足を目指す。



★林野関係2537億、過去最大規模の21年度補正予算

政府の21年度補正予算は、林野関係で2537億円、農林水産関係全体で1兆円を越す過去最大規模となった。林野関係は公共事業に1000億円のほか、花粉対策事業に300億円、国産材住宅の情報ワンストップサービスに5億円など非公共事業も拡充、短期間で底上げを図るねらいだ。

特筆するのが5億円を計上した国産材住宅づくりの情報ワンストップサービスの拡充策。20年度2次補正で2000万円計上し、4月から本格的に稼働した「日本の木のいえ情報ナビ」の機能を強化する。

「情報ナビ」は、国産材を用いた建築を条件に無料で業者登録ができるもので、登録数は工務店中心に500社を超える。機能強化と同時に一般消費者の利用増加を今後の課題としている。

★20年度林業白書、特集テーマは「低炭素社会を創る森林」

「平成20年度森林及び林業の動向」（森林・林業白書）は、トピックスに低炭素社会実現を挙げた。特集テーマでも「低炭素社会を創る森林」を掲げ、温室効果ガス削減効果が世界的にも期待される国内の森林機能を全面に打ち出した。

トピックスは5項目で、①低炭素社会の実現に向けた新たな取組②雇用情勢の悪化に対応した林業分野の雇用創出③ロシア材輸入量の減少と国産材への原料転換④製紙原料への間伐材利用の推進⑤岩手・宮城内陸地震災害への迅速な復旧対策。

今回の白書は、国内における環境ニーズへ応える内容に主眼が置かれている。これまでの「木づかい」「美しい森林づくり推進国民運動」などの関連施策に加え、排出量取引や高度な間伐材利用など環境資源としての需要創出を狙う施策が目立つ。

生産部会定例会議を開催

岡田部会長「工業会全体で積極的PRを」

生産部会（岡田清博部会長）は4月16日、秋田県田沢湖のホテルイスキアで平成21年度第1回定例会議を開催、利用促進PR活動の件について協議したほか、4VOCの自主規制対策に関する説明会を行った。また、各地情勢報告ではほとんどの企業が生産調整を余儀なくされるなどの現状を認識した。

岡田部会長はあいさつのなか、「昨年後半からの不況で住宅市場は大変厳しいが、経済対策の柱の住宅政策が効果を表すものと信じながら工業会全体でPR活動など積極的に取り組んでいきたい」と述べた。

◇情報交換、各地とも生産調整の局面へ

例年開催する需要促進要請活動（PR）については、下記の日程で実施する予定を決めた。

【中部地区】5月12、13日

【関東地区】6月25、26日

【関西地区】11月頃

情報交換の議題では、針葉樹フローリング生産者も積極的に工業会への参加を呼びかけることに加え、標準価格に杉、カラマツを追加することで合意。そのほか、地材地消の動きと対処方法などを協議した。また、各地情勢報告ではほとんどの企業が生産調整を余儀なくされている現状が報告された。

なお、第2回定例会議は9月11日、函館市湯川温泉で開催する予定。

◇出席者=17名（敬称略）

【北海道】 岡田清博（岡田木材株）、平畑信夫（松原産業株）、堀内慎一郎（北日本木材工業株）、梅野明夫（空知単板工業株）

【東北】 阿部孝嗣（八幡平木材工業株）、平野井景一（矢島木材乾燥株）、藤島二三夫（藤島林産株）、岩見和也（株カリヤ）

【関東】 笠倉英明（日本床工事工業株）

【中部】 佐藤正明（佐藤工業株）

【九州】 久津輪光一（池見林産工業株）

【施工流通部会】 中川俊勝（協栄木材株）、古田英之（中部フローリング株）、外瀬康宏（株ビムスカンパニー）、川鍋順三郎（明治リビング株）

【工業会本部】 日比野義光（工業会専務理事）



あいさつする生産部会・岡田清博部会長

工業会の関係省庁への陳情活動

中学校の武道場整備へ
PRパンフレット300部配布へ

◇林野庁緊急対策本部、業界で最初にヒアリング受ける

2月18日、林野庁の金融危機木材産業影響対策本部（1月設置）は工業会に対して木材業界で最初のヒアリングを行った。工業会からは田伏会長、中川流通部会長、平野井生産部会副会長、日比野専務が立ち会い、林野庁からは木材産業課の鈴木信哉課長ほか、課長補佐5人が対応。

工業会は公共建築における内装木質化や業界内の現状などを報告した。一方、林野庁からは、平成21年度の公立中学校における武道場整備の情報を得た。

◇文部科学省へ公立学校の内装木質化を陳情

工業会は、林野庁のヒアリングで公立中学校の武道場整備の情報を得たのち、フローリングを含む木材の利用促進を働きかけることから3月31日、文部科学省へ田伏会長、平野井生産部会副会長、日比野専務3人が陳情。都道府県の学校施設担当者の組織である公立学校施設整備期成会定期総会（6月2日）において、PR用パンフレット300部の配布を要請した。文科省からは大臣官房文教施設企画部施設助成課長・岩本健吾氏ほか課長補佐2人が対応。6月2日当日、300部のパンフレットを配布した。

★農林漁業信用基金、無担保で最大2・8億円まで

農林漁業信用基金はこのほど、平成21年度補正予算に基づく新たな保証制度を実施することを発表した。また、無担保保証の限度額を従来の1億円から2億円へ拡充したことから、新制度と併せて最大2億8000万円まで無担保100%保証を可能とした。

新たな保証は「フォレストサポート保証」の名称で、林業・木材産業を対象に間伐の実施や間伐材などの利用促進、木材の安定供給のために必要な資金の借り入れができる。具体的には間伐実施や係る路網整備、高性能林業機械導入、間伐利用に係る素材の引き取りなど。また、借り換え資金には利子補給で対応可能だ。期間22年度末まで。

基金では、保証制度全体に渡って「使いやすい保証」を目指すことから、保証限度額を拡充している。前述の無担保保証を限度額倍増するほか、会社の場合、1者当たり2億円の

限度額を4億円に、木材産業等高度化推進資金の限度額を2億円から4億円にそれぞれ引き上げた。

★20年度住宅着工は103万9180戸

国土交通省が発表した平成20年度の新設住宅着工戸数は、前年比0・3%増の103万9180戸だった。改正建築基準法の影響で建築確認申請手続きが遅れた前年度と同等の低い水準となった。床面積は同2・3%減の8634万4400平方 だった。

総戸数は、20年度上半期（20年4月～9月）が同8・9%増の58万964戸と回復ペースだったものの、景気が急速に悪化した下半期（20年10月～21年3月）は同8・8%減の45万8216戸。19年6月の改正建築基準法直後の7月～12月の45万6194戸と同等の低水準となっている。

東北支部だより

【矢島木材乾燥(株) 平野井 景一】

東北支部長の平野井でございます。

去る4月16日、秋田県は仙北市田沢湖町にて春の生産部会を開催させて頂きました。会議の内容につきまして別譲らさせて頂く事にしまして、この欄では会場につきまして触れさせて頂きます。

今回は会議会場と懇親会会場を分けました。その理由はさておき、まず会議会場ホテルイスキアについて。こちらの会場は田沢湖畔に建つ静かなホテルですが、今年の3月にはイ・ビョンホン主演の韓国ドラマの撮影陣の受け入れを行うなど、PR活動にも余念のないホテルであります。私が3月に現地に事前打ち合わせに伺った折には偶然イ・ビョンホンら出演者たちが昼食を取っており、日本各地からいらしたと思しきおばさま方が大挙しておりました。会議当日もホテル内には撮影時のセットが残されており、その名残を漂わせておりました。

次に懇親会会場の妙の湯について。こちらはお洒落な秘湯。近所の鶴の湯がさらに有名ですが、そちらが情緒

豊かな秘湯とすれば、こちらはモダンテイストを取り入れた秘湯と言えるでしょう。宿泊客もせいぜい数十人程度まで、といった感じで本当にこじんまりとした静かな旅館です。では、なにゆえ妙の湯を会場に選んだかと申しますと、秋田には、あるいは東北には、都会のホテルに規模や豪華さでは及ばなくとも、風情であったり趣を感じさせてくれるところがあるのでは？という事を感じて頂ければと考えたからです。

翻ってフローリングに関しましても、我々は大量生産・大量販売を行うタイプの会社ではないと思っています。しかし味がある。そんな会社でありたいとも思っています。

翌17日は晴天の下きれいな田沢湖を1周しました。透明度の高い湖面にそびえ立つ山々が映し出されとても美しい眺めでした。あいにく桜の名所・角館の桜には少し早かったですが、いくつかの木々には花が咲きほころび、我々同様これからの季節に期待を持たせつつ、春の部会は散会とあいなりました。

ひとこと

東北支部 藤島林産(株) 藤島 二三夫

弊社は、親会社が製材工場なので、原木とその製材工程を直接チェックできます。

その中で、特に印象に残る樹について紹介したいと思います。

【ケヤキ】

製材すると、材面に濃い紫の血を流したような模様が表れることがある。木材の仕事に関わって最初にびっくりしたのはこの模様だった。ところが半日もするとこの色は消えてしまう。製材する人しか見られないケヤキの特徴である。

【イタヤカエデ】

貯木の土場をまわると、甘い香りに気がつく。新芽が出るころに伐採入荷した原木は、断面の樹皮と辺材の境にそって砂糖の粒が点々とできています。上品な甘味がする。これがメープルシュガー。サトウカエデという種類は、砂糖の採取のために植林される。

【ヤマザクラ】

フローリングの「サクラ」は、カバを指すことが多いが、最近ヤマザクラを求められるケースが出てきた。樹皮は樺細工として茶筒やお盆に使われている。樹皮に特徴があるので、すぐ見分けられる。人工乾燥された板を、サンドペーパーで削ってみると桜餅の香りがする。

【ニセアカシア】

秋田県北では、ニセアカシアが鉱山の緑化に使われたこともあって、たくさん自生している。ただ、径が細く、硬くて加工しにくいので、あまり利用されていない。ニセアカシアの活用を進めたい町や市の要望により特注でフローリングに加工して出荷している。緑黄色のチークという感じの材面となる。経年変化でオレンジ色に変わっていく。

ニセアカシアの花からは上質の蜂蜜がとれる。秋田県北では、桜が散ったあとニセアカシアの開花となるが、他の植物の開花と重ならないため純粋なアカシア蜂蜜が採取できる。このため、この時期には全国から養蜂者が当地に集まる。

● 広報法務委員連絡先

委員長 石本 勝範 06-6538-7221
 委員 平畑 信夫 0123-72-1223
 委員 平野井景一 0184-56-2500
 委員 矢野 伸和 047-353-2100
 委員 佐藤 正明 0547-45-2174
 委員 當舎 弘造 072-276-1600
 委員 久津輪光一 097-592-2122

● 告知版

・7月14日(火)… 木材会館で
 理事会を開催

● 会員動向

平成21年1月31日現在

会 員	72社
賛助会員	23社
合 計	95社

● 会員会社の広告 掲載したい会員会社の方は、広報法務委員までご連絡をお願いします。

● 編集後記

住宅や公共施設などへの国産材利用を推進する「木材利用推進法案(仮称)」が次期国会へ提出される見込みだ。木造建築に関する規制緩和や、地元の木材で住宅や学校を建築する場合の優遇税制などを盛り込む。業界も敏感に対応したいところで、今年度から始まった公立中学校の武道場整備を今後の試金石としたい。針葉樹の単層床のPRや技術開発も急がれる。(聞)